

綿作りの一年 (綿は一年草です。5月に種をまくと、7月中旬ごろに花が咲き、お盆過ぎから白い綿ができます。(これを「綿が吹く」といいます))

5月			6月			7月			8月			9月		
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
*田起こし(畝立て)	①種まき	②発芽(十日目頃) *心芽がでる。	③肥やり(一回目)	④支柱立て *肥やり(二回目)	⑤芯留め	⑥開花	⑦蒴ができ始める	*蒴がらへくじ	⑧綿が吹き始める			⑨綿の天日干し		



**① 種まき**  
(5月初旬。八十八夜前後)

綿作りは、水はけのよい砂地が適しています。

種まきは八十八夜(5月2日頃)の頃といいますが、5月中なら大丈夫です。種はまく前の日、水につけておきます。

種をまく穴の深さは、指の第1関節くらいの深さで、穴と穴の間隔は20cmくらいです。念のため1つの穴に、種を2~3粒ほど入れます。

種を入れたら土をかぶせて、手のひらで軽く押さええます。



**② 発芽**  
(種をまいて10日頃)

種をまいてから、1週間から10日前後で芽(め)が出てきます。はじめの双葉(ふたば)のあと、成長する心芽(しんめ)がでます。



**③ 肥やり** (5月下旬~6月上旬頃)

背の低い間は、水をかかさないようにします。ひとつの穴に芽が何本もでたら、様子を見て、1本だけ残してあとは抜きます。

肥料は綿実粕(わたみかす)や油粕(あぶらかす)で、綿の木が20cmくらいに成長したら、1回目の肥料をあげます(種をまいてから20日後くらいで、5月下旬頃)。

それから約1ヶ月後(20日~30日)に2回目、さらに約1ヶ月後に3回目の肥料をあげます。



**④ 支柱を立てる**  
(6月中旬~下旬頃)

綿の木がある程度伸びてきたら(30cm程度)、風雨による倒れを防ぐため、支柱を立てます。



**⑤ 芯留め** (7月初旬~中旬頃)

綿の木が50cmくらいになったら、早めに芯留めをします。これは、綿の木が高くなるのを押さえ、その分の養分を綿の実へまわすためです。

なお、真ん中の芯を留めたからといっても、すぐに横からも枝が伸びてくるので、横の芯もこまめに留めてやります。

綿の木の高さは、できるだけ60cm程度まで、押さえるようにします。



**⑥ 開花(花が咲く)**  
(咲き始め7月中旬~下旬頃)

7月中旬から下旬にかけて、花が咲き始めます。花は、1日でしぼんでしまいます。

河内木綿の花は黄色です。



**⑦ 蒴ができる**  
(8月中旬頃~)

花がしぼむと、約1ヶ月間かけて、綿は吹く準備をします。

桃のような形をした蒴(さく)ができ、それがだんだんと大きくなります。



**⑧ 綿が吹く・綿摘み**  
(吹き始め8月中旬~下旬頃)

花が咲いてから、約1か月くらいすると、蒴(さく)がはじけて、綿が吹きます。

河内木綿の綿は、下を向いて吹きます。綿は、木の下の方から順々に吹いていきます。

吹き始めるのは8月中旬から下旬にかけてですが、9月上旬から中旬が最盛期です。

この時期に摘んだ大きめの綿の種を、来年の種まき用にとすると良いようです。



**綿作りの一年**

八尾市立歴史民俗資料館ホームページより  
<http://www.kawachi.zaq.ne.jp/yaorekimin/>  
 ▼綿に関するお問い合わせは、資料館まで。  
 〒581-0862 八尾市千塚3-180-1  
 ☎072-941-3601



**⑨ 綿の天日干し**

よく晴れた日を選んで、綿を天日干しします。これを3回繰り返します。湿っていると、綿繰りしたときに種がつぶれるので、十分乾かします。